

県議になって丸2年

切実な要望が県政を動かす



2007年に県議に当選させていた。07年9月26日に一般質問、08年7月11日に予算特別委員会の質疑を行いました。切実な県民のみなさ

の声を政治を動かすことを実感しています。運動や関係者の熱意で、また知事選をばさんで、県政へ一定反映された項目について報告します。

2009年5月17日
第65号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子
〈連絡先〉
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241
自宅:山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

一般質問で取りあげた項目から

乳幼児医療費助成制度の拡充を

これまで県の制度の対象者は、就学前(所得制限あり)でしたが、今年度は7月から入院のみ小学校6年生までに拡充する子ども医療費助成費が予算化されました。これは東北ではトップです。県内自治体でも上乘せして制度拡充をめざしています。国の制度化を求め、国は、ますます大きくなっています。

私学助成の充実を

私立高校の一般補助金の補助率は、今年度43%から44%となり、1人当たりの補助額が

アップしましたが、国の標準単価の増額分があり、県独自の上乗せ分については課題を残しました。

授業者軽減補助制度についても、さらなる改善が必要と考えます。

予算特別委員会で取りあげた項目から

重度障がい者の医療費助成制度対象者の取り扱いについて

65歳から74歳までの重度障がい者は、後期高齢者医療制度は加入選択制となっています

が、県が独自に実施している医療費助成については、後期高齢者医療制度加入を条件としていました。負担が増える方もお

5月1日メーデーに参加



これまで小学校全学年、そして中学1年は選択制で少人数学級編

入として見直しを求めました。今年度、条件は撤廃されています。

このほか、「妊婦健診の公費負担充実」については、国の予算化もあつて、県内自治体平均5.4回から全自治体14回へ公費負担が拡大しました。国は2年間の措置で、今後の運動が必要です。

の声を議会で代弁すると同時に、いっしょに要望実現の運動を広げたいと思います。ご意見・ご要望をお寄せ下さい。



中国「残留」帰国者の方々の県への要請に同席しました

中国「残留」帰国者山形の会、日中友好協会山形県連合会の方々(写真上)の県要請に同席するゆり子県議(写真下、中央) = 4月28日、県庁

五月晴れのもと、霞城公園内で開かれたメーデー集会と市内行進に参加しました。

集会では、新しく労働組合を結成した方も決意表明し、会場から大きな声援と拍手を受けていました。

日本共産党の佐藤まさゆき衆院比例候補(山形1区重複)が、来賓として激励と連帯のあいさつを行いました。

メーデー会場前で参加者を激励し政策を訴える(左から)ゆり子県議、佐藤衆院比例候補、佐藤、今野両市議。5月1日、霞城公園

本音で語ろう 食の安全・安心

食健連総会に参加

9日、国民の食糧と健康を守る運動山形地域連絡会(佐藤藤三郎会長)の総会と交流会が開かれ、参加しました。

交流会では、山菜を食べながら、活発な意見交換が行われ、農業を重視するという県政への期待と同時に、現場の声を柔軟に反映させる点での課題、生産者と消費者をつなぐ運動の強化についても、おおいに語り合われました。

新型インフルエンザ対策



国内でも感染者が出てしまった新型インフルエンザ。空港などの水際作戦で一定の効果はあったというものの、激務をこなす検疫官の不足がクローズアップされています。

日本共産党の小池晃参院議員は、1年以上前から指摘し、増員を求めています。現在、全国で

検疫官は358人しかいないそうです。

これから地域で感染対策の第一線に立つのは保健所や公的病院です。しかし、多くの方が認識しているように、保健所は統廃合や縮小、そして病院も病床数を減らし、医師も看護師も不足しています。

ワクチンの開発や備蓄も必要ですが、何より体制の充実が求められています。今季は乗り越えたとしても、秋からの備えやウイルスが変異する恐れも指摘され、長期の対策が必要とされています。ここでも、従来の「構造改革」路線政治の矛盾があらわれているのではないのでしょうか。

地方政治でも国政でも、体制充実が課題となっています。